

○茂木町は、中山間地域であり農業に不利な立地条件で、露地野菜の定着が難しく、**新規作物導入による産地収益の向上および地域の活性化が課題**。  
○このため、振興事務所では、茂木ニラ復活プロジェクトを立ち上げ、**中山間地域の振興を目指してメリットの多いニラの導入を推進**。  
○その結果、**1法人を含む11名がニラ生産を開始**し、「茂木町ニラ生産振興会」が組織化。**冬場の安定収入につながり農家所得が向上**。また、ニラを使った商品開発も進み、道の駅を中心に地域が活性化。

## 具体的な成果

### 1 ニラ作付け面積等の増加

■新規産地が育成され、販売金額等が増加し、農家の収益が向上  
(H23→H26)

#### ①作付面積

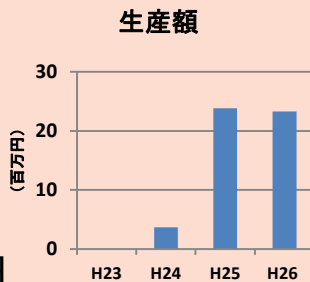
0a → 141a

#### ②生産者数

0人 → 10名

#### ③販売金額

0円 → 2,300万円



### 2 ニラを使用した加工品の商品化

■道の駅もてぎを中心にニラを使った商品開発が進んだ  
(H23→H26)

#### ①商品数

0商品 → 3商品

#### ②商品販売額

0円 → 1,000万円



### 3 地域の中心経営体として法人が成長

■新規参入した法人においては、ニラ等の品目を導入し野菜の生産を拡大し、地域雇用を創出  
(H21→H26)

#### ①地域雇用

0人 → 15名

#### ②作付面積

0ha → 10.2ha



## 普及指導員の活動

### 平成22年度

■中山間地域において軽量で高齢者にも取り組みやすく、鳥獣被害にもあいにくい等のメリットが多いため**新規導入品目としてニラを提案**

■振興事務所の呼びかけで町、JAからなる「茂木ニラ復活プロジェクト」を立ち上げ、ニラ栽培志向者のリストアップと個別巡回による推進

### 平成23年度

■法人に対してニラ栽培推進

■パイプハウス補助事業説明会実施

■栽培が開始され、茂木ニラ生産振興会設立

### 平成24～26年度

■ハウス建設、定植等実演を兼ねた栽培講習会、個別巡回指導による栽培支援

■商品開発に向けた講習会、試食会の開催

## 普及指導員だからできたこと

・専門知識を生かし、新規導入品目を提案、さらに、コーディネート力を発揮し、町、農協を巻き込んで、栽培者の掘り起こしをすることができた。

・本庁、試験場と連携して、パイプハウスの補助事業や展示ほ設置により産地化に向けた支援ができた。

## ニラの新規導入による中山間地域の振興

活動期間：平成 22～26 年度

### 1. 取組の背景

茂木町は、中山間地域であり農業に不利な立地条件で、農業従事者の高齢化に伴う担い手不足、鳥獣被害等により、露地野菜の定着は難しく、施設園芸も少ない地域である。従来から芳賀農業振興事務所は、茂木町農林課や JA はが野茂木地区センターと同じ問題意識を共有し、新たな導入品目を模索していた。

一方、栃木県では、ニラの収穫量・産出額が平成 17 年度までは全国 1 位であったが、平成 18 年度以降 2 位となり 1 位との差が年々拡大している状況であった。それを受け、「栃木にら No.1 産地奪回運動」を展開し、ニラの生産拡大・振興に向け機運が高まりつつあった。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）活動体制づくり

振興事務所の地域振興プロジェクトとして「茂木ニラ復活プロジェクト」を立ち上げ、5 段階の推進を図った。

#### （2）導入品目の選定

軽量で高齢者にも取り組みやすく、鳥獣被害にもあいにくい等のメリットが多いため新規導入品目としてニラを提案した。過去に、ニラを導入し失敗した経緯があったため、農協幹部から猛反対を受けたが、同様の中山間地域である那珂川町でのニラ栽培優良事例の視察を実施し、同意を得た。

#### （3）栽培者の確保

振興事務所、役場及び農協との連携により、ニラ作付け希望者の掘り起こしを実施した。掘り起こしの対象としては、退職予定の兼業農家や中山間地対策としてハトムギ、トウキ等過去の試験栽培者、農業委員 OB 等を中心にリストアップし個別巡回により推進を行った。

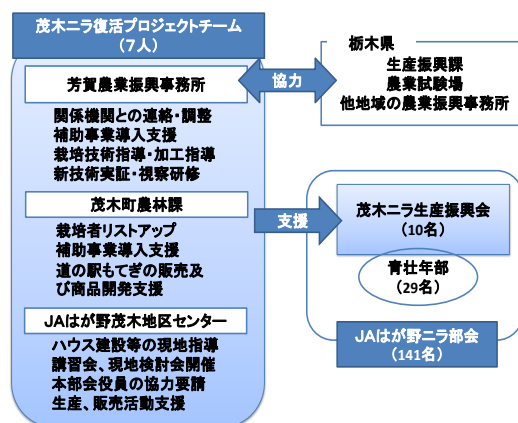


図1 茂木ニラ復活プロジェクト体制



優良事例視察

(4) 事業を活用したパイプハウスの整備

パイプハウスなどの導入支援のため県単の補助事業について説明会を実施した。茂木町の生産者だけでは補助事業の面積要件に達しなかったため、年間雇用の改善など新たな経営展開を検討していた法人にもニラの導入を推進した。

(5) 栽培技術向上に向けた支援

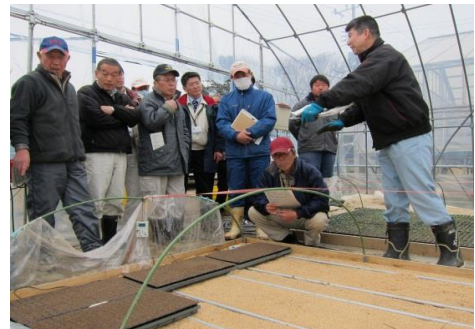
会員すべてが未経験で一からのスタートであったため、ハウス建設、育苗・土づくり、定植等ポイントごとに開催した。また、農協、役場とともに定期的に巡回指導を実施し、特に分かりづらい作業についてはJAはが野ニラ部会のベテラン農家宅で実習を行った。

また、増収効果が期待される炭酸ガス施用技術導入に向けて、展示ほを設置し技術波及の拠点とした。

(6) 販売の多様化と商品開発に向けた支援

多様な販売を図るため、農協と役場が中心となって市場出荷以外の販売についても検討を行った。

また、茂木のニラを特産品として販売するため、普及指導員（生活）が講師となり、道の駅や農村レストラン、加工所を対象に、漬物講習会や商品開発に向けた試食会等を実施した。



普及指導員による育苗講習会



試験場での新技術研修



普及指導員による漬物講習会

### 3. 具体的な成果（詳細）

(1) 栽培者の確保・育成

ニラ栽培希望者の掘り起こしの結果、30代から70代の生産者10戸と農業生産法人1経営体が生産を開始することになり、計11名の新規栽培者を確保し、平成24年2月に「茂木ニラ生産振興会」が結成された。

また、新規参入した法人においては、ニラを含めて野菜の生産を10.2haにまで拡大し、労働力として従業員7名、パート15名と地域雇用を創出している。

表 1 ニラの生産戸数、面積及び出荷額の推移

|          | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 栽培戸数 (戸) | 0        | 11       | 12       | 10       |
| 面積 (a)   | 0        | 85       | 144      | 141      |
| 生産額 (千円) | -        | 3,684    | 23,816   | 23,285   |

## (2) 収量、品質の安定

実演を兼ねた講習会を開催したことで、栽培において、普及指導員が的確なアドバイスをを行った結果、栽培管理の遅れもなく、十分な低温時間を確保してからの収穫開始が徹底され、初年度から、高品質で安定した収量が確保できた。

また、展示ほを設置し、炭酸ガス施用効果を検討した結果、収量性は変わらなかったものの葉幅が優れる結果が得られ、品質向上につながった。

## (3) 販路の多様化と商品開発

農協を通じて市場へ出荷する他、地元の学校給食へ供給されるようになった。「道の駅もてぎ」では新たにニラ販売コーナーが設置され、冬場の品揃えが充実した。また、法人においては県内食品加工業者等への販路も独自に確立されている。

ニラの漬物等の講習会、商品化に向けた試食会をきっかけに、道の駅では様々な商品が開発され、「ニラ味噌ラーメン」や「ニラ餃子」、「ニラコロッケ」の3商品が販売され、売り上げも1000万円程度に伸びている。

## 4. 農家等からの評価・コメント（茂木ニラ生産振興会長・栗田誠二氏）

ニラ栽培を始めて所得向上につながりやりがいを感じている。少人数の組織であったため、常に一緒に振興会の活動に参加し、困った時はお互い助け合い、結果的にニラ栽培を通して、仲間づくりできたことが何よりも良かった。

## 5. 普及指導員のコメント（芳賀農業振興事務所経営普及部・主査・仁平祐子）

過去に同地域においてニラの導入に失敗した経緯があったが、今回、振興事務所が推進役となって、町や農協と連携し、ニラ導入に向けた活動の結果、ニラ産地が復活し、定着したことは普及指導員の果たした役割が大きかったと感じている。

## 6. 現状・今後の展開等

毎年、県内外の優良事例視察研修を行い、収量・品質向上に向け意欲的に活動している。

また、振興会の中には、若手生産者2名、新規参入した法人も含まれていることから、今後の地域の担い手として特に力を入れて支援を続けていきたい。